

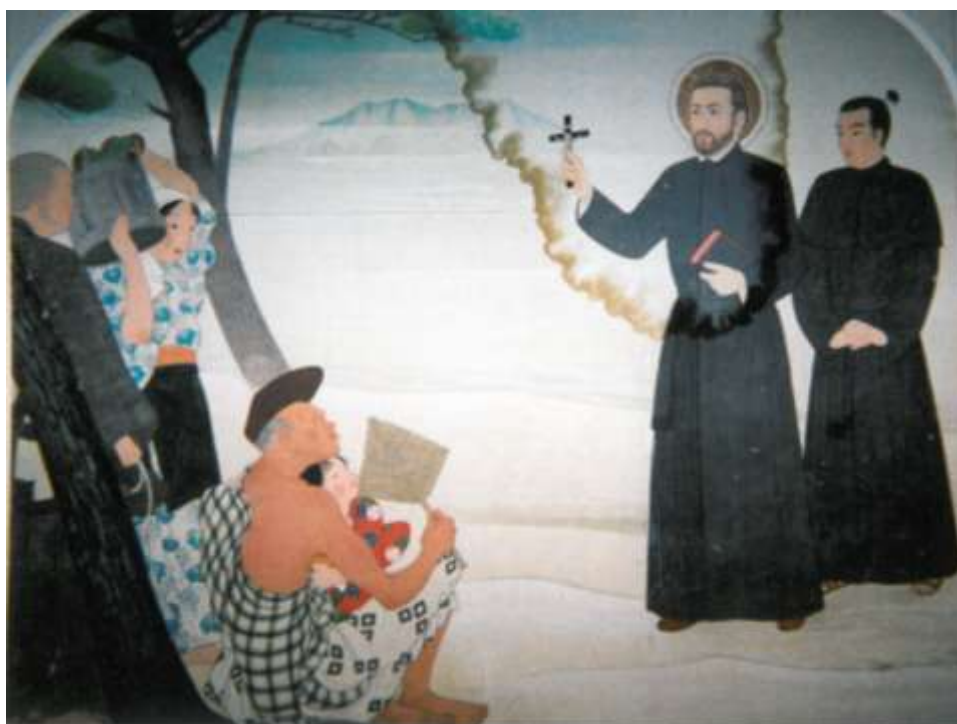


からしだね

2013年
12月号 (489号)

キリストの受難
カトリック池田教会

共同宣教司牧: 畠 基幸神父・染野 治雄神父
協力司祭: デニス・マックゴワン神父
住所: 〒563-0041 池田市満寿美町9-26
TEL :072-751-2400 FAX :072-753-4624
URL(ホームページ) :
http://www.wombat.zaq.ne.jp/catholic_ikeda/



聖ザビエル教会の信徒が描かれた壁画です
聖ザビエルの隣にいるのはヤジロウ(弥次郎)です

巻頭言	2	ガラスケースの言葉	2
教会維持費納付票について ..	3	クリスマス・新年のミサ時間	3
受堅者からのお礼	4	七五三祝福	4
北摂地区中高生交流会	4	ドレミの会	5
樹木の剪定	6	教会入口手すり	6
中高生お泊まり会宿泊者募集	6	からしだね俳壇	7
宝塚黙想の家から	8	もみじまつり	8

表紙写真: 鹿児島カテドラル 聖ザビエル記念聖堂
聖フランシスコ・ザビエル壁画

提供: 新穂 寿子

※ 聖堂入り口で配布しているものからの抜粋版です
完全版をご希望の方は、お近くの広報委員までお問い合わせください

巻頭言

日本の御受難会のはじまり

デニス神父

時間がたつと、日本の御受難会のはじまりについて知っている人が少なくなると思います。わたしは全部知っているとは思いませんが、その頃シカゴの本部の神学生でしたから、それでいろいろ聞いたのです。そして最初の5人マテオ、カール、クレメント、ポール、ジュリアスを良く知っていました。

いちばん初めのことを言うと、大阪教区の田口司教様がローマの御受難会総長にアプローチしたのです。御受難会が日本を手伝うようにと頼みました。そのときの総長はマルコム神父様でした。神父様はアメリカの西管区出身だったので、西管区に頼みました。西管区長のパトリック神父様は1952年12月に大阪にやって来て田口司教様と相談しました。教会の活動のために田口司教様はいろんな土地を買いましたが、そのなかに雲雀が丘の古い小学校の土地がありました。その土地をパトリック神父様は御受難会の修道院と黙想の家のために手に入れたのです。

これが4年前だったら、無理だったかもしれません。中国に送られた司祭がかなりいたからです。1948年にはカール神父様とポール神父様が中国に送られていました。ところが半年で帰らなければなりません。革命のために宣教師たちは中国から追放されてしまったのです。それで西管区に日本に派遣するための余裕ができたというわけなのです。そうしてうへの5人が選ばれました。その当時の管区長はジュリアス神父様でした。しかし日本に行くまえにジュリアス神父様は胃がんが見つかり、代わりの人を探す必要ができました。

レクリエーションのとき、わたしたち神学生はパトリック神父様と話していましたが、代わりの方は誰になるのでしょうか、とあててみたのです。「A神父様がいいでしょう」といったら、パトリック神父様は「そうですね」と言いました。「B神父さまもいいでしょう」といったら「そうですね」と答えました。とうとう誰かがマテオ神父様の名前を出しました。「しかし彼は大切な仕事があるでしょう」（実は初誓願をおえたあとの神学生係をしていました）という答えでした。でも「ははー、あたった」と私達はおもっていました。予感通りでした。最初マテオ神父様とカール神父様が日本に来て、そしてそのすぐあとポール、クレメント、ピータが送られ、それで雲雀が丘の古い建物を使って日本の御受難会の仕事が始まりました。

説教を英語で書いてから、きれいな日本語に直してもらって雲雀が丘の修道院と全国の教会一奄美大島まで入っていました。をまわって黙想会の資料をつくりだしたのです。はじめに小教区の仕事を考えたわけではなかったのです。しかし、それは別の話になってしまいます・・・このへんで今日はおしまい。



12月のガラスケースの言葉

いと高き天においては神に栄光、
地においてはみこころにかなう人びとに平和

(ルカ2・14)



平成26年教会維持費納付票について

平素教会の維持管理のため献金下さり有難うございます。

教会法で信徒は応分の負担をするよう定められていますが、それぞれご事情があり全家庭ということはありません。また18歳以上で収入のある方はご家族とは別に献金下さるようお願いしていますが、数名に留まっています。

納付票はクリスマスメッセージに同封して待降節までに皆様のレターケースに配っておきますので、郵送料節約のためにも12月第2週までにお持ち帰り下さるようお願いいたします。

(財務委員会)



クリスマス・新年のミサ時間

12月24日 クリスマスイブ 19:30～

12月25日 主の降誕 10:00～

1月1日～3日 11:00～

(典礼委員会)



受堅者からのお礼 (10月26日)

9月16日に堅信を受けた中高生他有志から、指導して下さった染野神父様にお礼が手渡されました。



七五三 祝福
(11月17日)



北摂地区中高生交流会 (9月8日)



ドレミの会 (11月9日)

川西市の『和太鼓みのり』さんに来ていただきました。
会場が一体となるような迫力満点の演奏でした！！



ドレミの会から

いつも「ドレミの会」にご協力ありがとうございます。

12月14日(土)にドレミの会のクリスマス会が行われます。

毎年お願いしておりますが、お家に眠っている小物がありましたら、クリスマスプレゼント用に、ご寄付ください。サンタの贈り物なので出来るだけ、使っていないものをお願いいたします。カール記念館和室に、箱を用意いたしますので、その中に入れてください。

12月14日午前中まで、受け付けます。どうぞよろしくお願いいたします。(村嶋)



樹木の剪定を神父様と信徒のパワーで

漸く秋らしくなった10月28日(木)に、教会門から入って聖堂と信徒会館、司祭館に囲まれた庭などにある高木常緑広葉樹のアラガシ(4株)、モチノキ(2株)、イヌマキ(2株)、モッコク、ツバキ(9株)、キンモクセイなど、敷地内外の通路と公道に面している低木常緑広葉樹の生垣のカイズカイブキ、ナンテンやサツキなどと落葉広葉樹のムクゲやカラシの木(2株)などの剪定が行われました。総務委員会によって立案された剪定作業では、高木類と生垣については一信徒の寄付によって池田シルバーセンターから派遣された元プロが剪定し、染野神父様とシルバー信徒男性が使い慣れた剪定鋏や鋸で安全に低木類を剪定しました。切り落とされた枝葉類は畠神父様を先頭にした12名のシルバー男性信徒と5名の信徒女性によって60リットル容量の34袋に袋詰めされ、昼食の暖かな豚汁の調理と喉を潤すお茶の用意などの裏方仕事は7名の信徒女性によって担われました。午前9時半から午後3時過ぎまでの好天気下の作業は心地好い筋肉痛を残したようです。

信徒有志による夏剪定(6月)と今回の剪定作業によって、①成長しすぎて風(酸素)と光を遮る徒長枝が除かれ、②幹や枝の途中からの胴吹きや芽や枯れた枝が落とされ、③来るべき寒い乾燥期にも多すぎる葉面からの過蒸散を防ぎ、④屋根の樋を詰まらせる上方に伸び過ぎた枝と葉、枯れ枝が除かれ、教会敷地内の樹木は寒々した姿に変わりました。しかし、この冬支度によって来春には健康な新枝と美しい樹形が期待されるのです。「からしだね」の本年1月号から12月号に記載された池田教会の信者数の増加は10名(入信者と転入者の合計が31名、転出者と帰天者の合計が21名)でしたが、新たに植樹された樹木はモミ(教会門付近)、ソメイヨシノ(東側の公道沿い)、ツバキ(聖堂と聖マリア幼稚園の間)の計7株でした。

(文責 大野)



教会入口 手すり

11月22日、
教会入口のスロープに
手すりの取り付けが
完了しました。



中高生のお泊まり会の宿泊者募集！！

施錠と火の始末、見守りをお願いいたします。
毎月第2土曜日です。 (研修委員会)





からしだの俳壇

松本善一

白砂の庭に等目冬つばき

真新し六地蔵尊石路の花

大西孝子

干し柿の匂ひをのせてる子日向

会わねば人は遙かや花いつ手

亀甲春子

敗残の兵のゴとくに破れはちす

右と見て左へふかり秋螢

原田寛子

残り柿ふるまとの母恙なし

秋薔薇そうい 医者は手術とこともなげ



仲和子

熟柿のとる人も時き世世かな

落日や池のまわりの石路の花

赤井りう子

セーターの肩においた手やさしくて

カ草横綱紐と思ふことも

馬場とよ

寒林に眠び火するかの夕落暉かな

秋霖のいにしえ烟る比叡内宸殿

山尾純枝

葛もみじそのまおしとや病むわれに

秋ひと日はまよと語る友のみて



宝塚黙想の家から 黙想会のお知らせ

私たち、キリスト者に与えられている宝は、神のみことばである聖書です。
黙想の家では、毎月みことばを深く味わう集いを行っています。
宝は大事にしたいですね。

■ 日帰り黙想会

12月19日(木) 10:00~15:30 指導：山内十束神父 費用：3,300円
12月20日(金) 10:00~15:30 指導：山内十束神父 費用：3,300円

■ 待降節黙想会

12月7日(土) 17:00~ 8日(日) 15:00 指導：染野治雄神父 費用：8,800円
12月14日(土) 17:00~15日(日) 15:00 指導：山内十束神父 費用：8,800円

※ 申し込みは、黙想の家まで TEL. 0797-84-3111

宝塚黙想の家 もみじまつり (11月23日)



編集後記

今号が発行される頃には、開催間近であろうが、先頃『プーシキン美術館展』に行く機会に恵まれた。なるほど、副題にフランス絵画300年とあるように、印象派が中心の展示であった。中でも、アングル作(1780~1867)「聖杯の前の聖母」は、ロシア皇帝アレクサンドル2世が、皇太子時代ローマで画家アングルに聖母子像を描いてほしいと依頼した作品だった。宗教画ではあるものの、依頼主の意向が大きく描き込まれている。と、同時に聖母の気品さと女性美は、アングルの得意とするところで、見逃せなかった。この日、神戸の街で芸術の秋を、満喫することができた。(天使の微笑)

